

「津軽こぎん刺し」を切り口に展開!

滞在2日目、弘前シティプロモーションイベントを実施。地下を会場としてお借りしたMaison du Japon (日本館)は日本雑貨のセレクトショップで、ボルドーでの日本文化の発信拠点となっています。弘前の魅力を知ってもらうため、そして、その先のインバウンドに繋げるため、伝統工芸品の展示やワークショップを行いました。

3年前から constants に実施してきた弘前シティプロモーションイベント。前回に加えて工夫した点はこの二つ。

- ・投票型アンケートを取り入れたこと
- ・豊富な動画資料を持参したこと

そして、今回は初めて**企業人と共にイベント**を上げました。弘前こぎん研究所 成田弘美さんの参画によって、現地の人の興味や伝統工芸品の方向性についてより深い考察を得ることができました。

津軽こぎん刺し

成田さんのご協力で充実した展示ができました。現地の人は品物だけでなく、施された津軽こぎん刺しの模様にも興味深々。

津軽こぎん刺しワークショップを開催!

現地の人40人にコースター作りを体験してもらいました。刺してもらった模様は「猫の足」。

こぎん刺しに関するポスターや弘前こぎん研究所で所有していた映像(フランス語訳をつけました)で、現地の人に歴史的背景をしっかりと伝えた上で体験してもらうことにより、津軽こぎん刺しという伝統工芸品だけではなく、弘前という地域そのものへの興味を引き出すことに繋がりました。



「弘前、こぎん刺しのコースターを作ってみました、私たちよりも刺すのが速くて正確！」



津軽塗

プロジェクトメンバーも持ち寄り、お椀やお盆など、様々な品物を展示。(クローズアップ写真は、弘前大学への留学経験があり、イベントに参加してくれたキャロルさん提供!)

投票型アンケート① 「伝統柄と新柄、どちらが好きですか?」

現地の方は、新柄よりも伝統柄を好む傾向

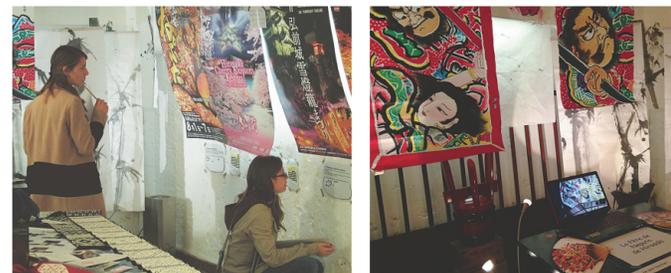
→ヨーロッパ向けにアレンジしたものよりも、伝統的なモチーフを押し出したほうが良いのでは?

好きな津軽塗の柄



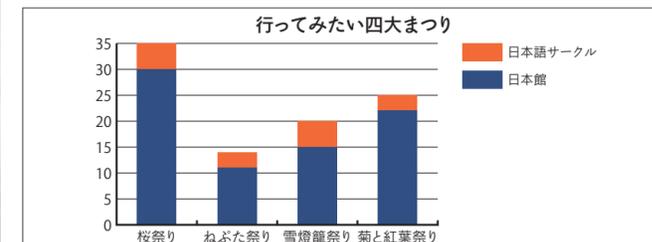
弘前シティプロモーションイベント

観光客誘致のヒントを探る!



ポスターを用いて弘前の春夏秋冬を象徴する四大まつりを紹介。ねぶたまつりについては動画やねぶた絵を持参しました。

投票型アンケート② 「四つの中で一番行ってみたいまつりは?」



桜・紅葉への強い人気。しかし、今回最もアピールをしたねぶたまつりへの投票が少ない →ねぶたまつりは参加し体験する文化=参加型・体験型の誘致が効果的?



▲白神山地&ブナコ:「世界遺産への玄関口」としての弘前をアピールすべく、西目屋村からも白神山地のポスターを取り寄せて展示し、合わせて動画を用いてブナコも紹介。若い人もブナの森の美しさとブナを無駄なく活かすブナコの製法に興味を示しました。

▲ふらいんぐういっち:ボルドーには若者主体で始まったANIMASIAという2万人規模のアニメイベントがあります。今回はアニメ「ふらいんぐういっち」の紹介を試み、若者の弘前への興味を引き出しました。帰国後、なんと目下、漫画版の翻訳がフランスで次々刊行中です!

▲津軽三味線:昨年度プロジェクトメンバーで、当時ボルドー留学中の先輩とも協働し、津軽三味線文化の歴史や津軽三味線の奏法を紹介するスライドによるプレゼンテーションを実施。先輩の夢はヨーロッパに津軽三味線を広めること。

「津軽こぎん刺し」で繋がる日本とフランス

弘前大学の協定校であるボルドー・モンテニュ大学。最初のプロジェクトから交流のある「大八島」という日本語サークルがあります。「日本食が好き」「日本語のイントネーションが好き」「日本に行きたい」と積極的に日本好きを私たちにアピールしてくれました。そこで今回、弘前の伝統紹介ということで、「大八島」でも津軽こぎん刺しのワークショップを行いました。

江戸時代から津軽地方に伝わる、津軽こぎん刺し。その伝統的な模様の一つである「猫の足」をコースターに刺してもらいました。



◀こぎん刺しミニワークショップ:拙いフランス語で説明する私たちに一生懸命耳を傾けて、一針一針丁寧に刺していきます。作品が完成していくにつれて、交流も深まっていき、完成した時にはお互い一緒に満面の笑みを浮かべて喜び合うことができました。時代も国境も越えて受け入れられる魅力を持った伝統工芸であり、個人と個人の交流までも深めてくれる津軽こぎん刺し。私たちはこの文化が途切れないよう大切にしていきたいですね。



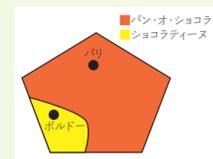
◀津軽こぎん刺しの商品にも興味津々の様子:特に黒や紺色の布地にこぎんが刺してある巾着などは、欲しいと言う人が多かったです。ただ、ティッシュケースはフランスのティッシュの大きさが違うため、そのままでは入らないなどの問題も出てきました。しかし全体的に日本の商品の印象は良いようで、「こぎん刺しの商品を身につけて通りを歩いてみたい!」と言ってくれる人もいます。日本の伝統工芸はフランスの人たちにも魅力的に映っているようです。

豆知識

ボルドーについての豆知識を紹介します!



ボルドーには、伝統的にボルドー式アノブというのがあるようです。ハンドルを上下に動かすことによる回転運動でドアを開けるため、強い力が必要なく、誰でも簡単にドアを開けることができます。ボルドーにはバリアフリーも根付いている!?



この写真のようなパン・オ・ショコラ(直訳:チョコレート入りのパン)は、地域によって呼び方が異なり、ボルドーを含むフランス南西部ではショコラティースと呼びます。